

6-1		主題	現場の一職員が仕掛ける意識改革	
意識改革		副題	もっと入居者主体の介護を！	
入居者主体				
研究期間	5ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム エトワール	
発表者：鈴木隆之（すすきたかゆき）			アドバイザー：	
共同研究者：高橋和男 山本大勝 玉井裕子				
電話	03-5876-1213	メール	etile@toujukai.jp	
FAX	03-5876-1215	URL	http://www.toujukai.jp/	

今回発表の事業所やサービスの紹介	社会福祉法人藤寿会が運営する特別養護老人ホームです。平成21年6月に開所し、入居170床、ショートステイ40床、認知症対応型デイサービスが併設されています。
------------------	--

<p>《研究前の状況と課題》</p> <p>当施設はユニット型特養でありながら、決められた日々のスケジュールをこなすことに追われ、なかなか理想とする「入居者主体の介護」を実現しきれないというのが現状であり、他の現場、他の施設でもよくあるケースだと考えられる。その主な理由としては、以下のことが挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・忙しく、大幅な業務変更が難しい。</li> <li>・業務が増えることへの抵抗感がある。</li> <li>・従来型介護の経験者が多い。</li> <li>・業務がトップダウン型（受動的）である。</li> <li>・新しいことを提案しづらい雰囲気がある。</li> </ul> <p>もう一步踏み込んだ「入居者主体の介護」を実現するためにできることはないか、現場の一職員の立場で考えた。</p>
---

<p>《研究の目標と期待する成果》</p> <p>新しい業務を増やすのではなく、意識の変革による無理のない改善を図ることで、賛同者も得られやすく、同様な状況にある他の現場にも水平展開できる可能性も期待できる。更に、職員が能動的に仕事をする楽しさを知ること、より大きなやりがいを感じるようになるのではないかと考えた。</p> <p>「入居者主体の介護」を少しずつ浸透させることで職員の意識を変え、結果、日々の業務に於いて、またトラブル発生時などに於いても、入居者主体の考え方ができるようになることを目指す。</p>
--

《具体的な取り組みの内容》

1. 『普通の生活』を考える

普通の生活における作業で、入居者ができるものはないかを職員がその日その時に考えて実行する。(能動的に動くことにこだわるため、作業を日課として決めない。)

実際におこなった例

- ・ コーヒーなどの飲み物の自作
- ・ 食事の下膳
- ・ 掃除機、モップで自室の掃除
- ・ テーブル拭き
- ・ 風呂の湯張り など

また、形式を決めずに、おこなったことを自由にノートに書き、他の職員は、記入もしくは口頭でそれに対してコメントをする。おこなったことへの評価が得られることや、褒められることで記録業務への抵抗を無くし、楽しんで取り組めることに繋がる。

2. 入居者を知る

業務に必要な利用者の情報だけでなく、それ以外の情報を積極的に収集し、入居者のことを深く知ることによって、画一的な介護からの脱却を図る。

具体的には、各職員が1ヵ月で情報を聞き出し、集めた情報を回し読む。

《取り組みの結果と評価》

業務スケジュールを変更しないことで手軽に取り組むことができ、日々新たな発見が得られた。限られた条件の中、できることは何かを自分で考えることで、能動的に仕事ができるようになった。また、評価が得られることで楽しく仕事ができ、次への挑戦意欲が出たことにより、継続性が保たれた。

「ビニールエプロンは普通の生活っぽくないのでは？」などの声が職員から挙がるようになり、取り組みをおこなうことにより、意識が変わったように感じられた。

入居者にも変化が現れ、水分摂取が進まない方が、自分で作った飲み物は飲むようになり、他入居者が下膳しているのを見て、自分もしたいと言われる方もいた。

更に、入居者の情報(好きな色、花、歌手や映画、旅行で行ったところや恋愛観など)を聞き出すことが会話時間の増加に繋がり、入居者をより深く知ること、入居者を見る目が変わった。

《まとめ》

現場の状態に合った、無理のない改善をおこなうことで、抵抗なく取り組むことができ、やりがいや楽しさの獲得に繋がった。

《参考文献》

『大逆転の痴呆ケア』：和田行男(著)

《提案と発信》

今大会での発表以外でも、各施設、事業所でいろいろな素晴らしい取り組みがおこなわれていると思います。現場レベルでの交流、意見交換をすることで、新しい発見や、第三者目線による改善ポイントの抽出などが期待できると思うので、多くの介護従事者が集まる今回のような機会、そのきっかけ作りができればと思います。

【メモ欄】追加資料 有  無